



人権のまど

まちづくり推進課 (内線311)

「ことば」は記号

12月7日、市内の中学校にコピーライターの玉山貴康さんをお招きし、「ことばとこころ」を演題に講演会を実施しました。

玉山さんは、ホンダ、味の素、ユニクロなど大手企業の広告キャンペーンを数多く手掛ける一方で、さまざまな人権啓発活動にも取り組んでいます。自身の仕事やこれまでの人生経験を交えながら、普段使っている「ことば」は記号に過ぎず、「その先にある意味」について考える事の大切さを生徒に訴えかけました。

生徒からは「もっと言葉の使い方を意識してコミュニケーションをしていきたい」「言葉を大切にし、他人の痛みが分かるような人間になりたい」などの感想がありました。

普段の生活で何気なく使われる「ことば」ですが、今一度立ち止まり、受け取る人の「こころ」を想像して、思いやりのある言葉の使い方について考える時間となりました。



玉山さんが作成した子どもの虐待をテーマにした人権キャッチコピー

**「道でころんだ」
と親をかばう子供がいます。**

この言葉の先にあるものを、皆さんはどう受け止めましたか。



Re Start 再犯防止の情報をお届けします

まちづくり推進課 (内線311)

Vol.11 犯罪をした人のその後と保護司②

保護司の活動

前回(11月号)では、保護司の役割を紹介しましたが、保護司は実際にどのような活動を行っているのでしょうか。犯罪をした人の多くは、刑期満了前に仮釈放となり、矯正施設から出ると保護観察となります。

保護司は、対象者の受刑中から生活環境調整を行います。生活環境調整とは、保護観察となった人が地域で円滑に生活していけるよう、家族の有無や家族の支援、住む場所、就労などの調査や調整を行います。

矯正施設から出た後月2回以上の面談を行い、刑期が終わるまで支援を続けます。

保護司の想い

土岐保護区保護司会の出口満知子会長に支援について伺いました。

支援に一番大切なことは、「聴くこと」です。犯罪をした人は自責の念から他人との関係を遠ざけ、地域で孤立し

がちなため、何よりもまず寄り添う必要があります。何気ない世間話をしたり悩みを聴いたりして、良好な関係を築くようにしています。

こうしてより多くの時間を共にすることにより、信頼関係が生まれます。息の長い支援を目指す土岐更生保護サポーターにはさまざまな思いを寄せて訪れる人が絶えません。

更生保護のマスコットキャラクター

ホゴちゃん



サラちゃん